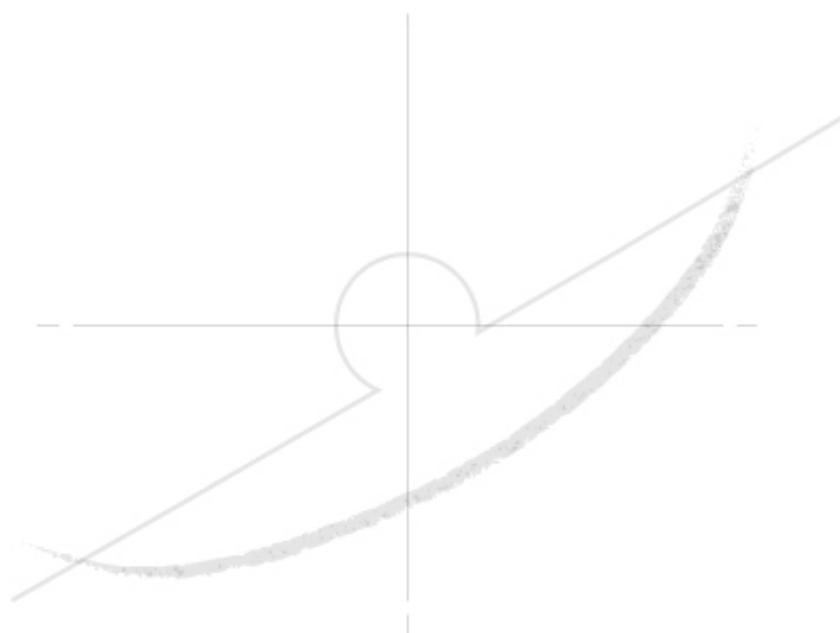


証券コード6777



## 2009年度中間報告書



# sarntec



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、平成22年3月期第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）の業績ならびに当社グループの取り組みなどにつきまして、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の業績は前第2四半期連結累計期間と比べまして、減収減益となりました。厳しい経済環境の中、最大限の営業努力を行いましたが、先行きへの警戒からくる需要の縮小が大きく影響したものです。

このように厳しい状況下ではありますが、当社は、光技術のパイオニアとして今後も光技術の発展に寄与してまいります。株主の皆様におかれましても、一層のご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

2009年11月  
santec株式会社 代表取締役社長

鄭 台 鋼

### 経営成績

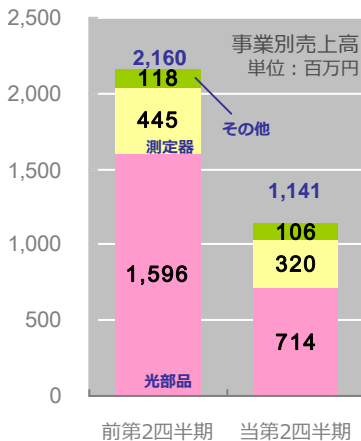
当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、昨年以来の世界的な不況が継続する厳しい状況が続きました。一部では持ち直しの傾向が見られたものの、設備投資関連においては依然として低迷が続いていると考えられます。

当社グループの属する光通信市場においても、厳しい環境が続きました。総務省の試算によれば、この1年間でわが国のインターネットのダウンロードトラフィックが40%以上増加しており、データ通信量は大きく増加し続けております。その一方で、通信事業者および通信機器メーカーは、先行き不透明な景況を警戒し、在庫量を最低限に抑え、設備投資にも慎重な姿勢を継続したものです。

このような状況の中、当社グループは、平成22年3月期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の基本方針として、「徹底した経営効率向上と新事業の創設」を掲げ、事業活動を展開してまいりました。当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は1,141百万円となり、前第2四半期連結累計期間と比較して1,019百万円、47.2%減少いたしました。前第2四半期連結累計期間に大きく伸ばした光モジュール製品について、反動も含めて大幅な売上減少となったこと、製造設備向けの光測定器の売上が、設備投資見合わせなどの影響で減少したことが主な要因です。

なお、OCT（Optical Coherence Tomography. 光干渉断層画像計。光の諸性質を利用して非破壊で断層画像を作成する技術。）光源装置については、新規顧客の開拓に時間を要しており、前第2四半期連結累計期間と比して、ほぼ横ばいとなりました。

このような中、役員報酬の減額、従業員の配置適正化による業務効率の向上、原価低減、経費節減などの対策を講じましたが、当第2四半期連結累計期間の営業損失は161百万円（前第2四半期連結累計期間は営業利益225百万円）、経常損失は204百万円（前第2四半期連結会計期間は経常利益211百万円）となりました。四半期純損失は204百万円となっております。



### 事業別セグメント

#### ① 光部品関連事業

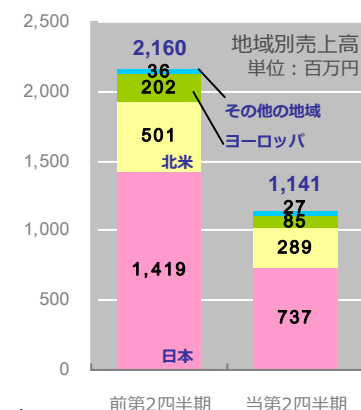
中長距離通信向け光モジュール製品等の売上が、大幅に減少したことに起因して、売上高は55.3%の減少となりました。

#### ② 光測定器関連事業

生産設備向けの光測定器の売上が低迷したこと、OCT光源装置については新規顧客の開拓に時間がかかっていることなどにより、28.1%の減少となりました。

#### ③ その他の事業

システム・ソリューション事業のソフトウェア販売で、顧客企業の経費節減の動きの影響を受けて新規受注が伸び悩みました。セキュリティスイッチやHDMI伸張ケーブル装置の販売を始めており、当連結会計年度中に一定の成果を出すべく取り組みを強化しております。



### 地域別セグメント

#### ① 日本

光部品関連事業に関しては、最終顧客が北米となる製品を中心に需要が大きく冷え込みました。

#### ② 北米

北米における通信設備への投資状況はCATV事業者などを中心に回復が遅れ、需要が低迷しました。

#### ③ ヨーロッパ

需要の減少に加えて、前第2四半期連結累計期間との為替の差異が影響しております。

#### ④ その他の地域

中国市場においても、光通信用部品等の製造工程への設備投資や研究開発に関わる設備投資に引締め傾向が見られました。

## 連結損益計算書 (6ヶ月)

(単位 千円)

	前第2四半期	当第2四半期	前 期
	H20.4.1~9.30	H21.4.1~9.30	H20.4.1~H21.3.31
売上高	2,160,543	1,141,376	3,911,316
売上原価	1,259,356	785,008	2,419,923
売上総利益	901,187	356,367	1,491,393
販売費及び一般管理費	675,214	517,662	1,328,292
営業利益または営業損失	225,972	△161,295	163,101
営業外収益	34,889	10,395	63,478
営業外費用	49,224	53,717	150,607
経常利益または経常損失	211,637	△204,617	75,971
特別利益	-	592	83
特別損失	25	75	89,538
税金等調整前四半期純利益 (または四半期純損失)	211,611	△204,101	△13,483
法人税等	3,261	602	94,829
四半期純利益 (または四半期純損失)	208,350	△204,704	△108,312

## 連結貸借対照表

(単位 千円)

	前 期	当第2四半期
	H21.3.31現在	H21.9.30現在
資産の部		
流動資産	2,944,930	2,499,881
固定資産	4,667,119	4,840,211
資産合計	7,612,049	7,340,093
負債の部		
流動負債	429,390	346,592
固定負債	408,447	424,914
負債合計	837,838	771,506
純資産の部		
株主資本	6,893,567	6,688,863
評価・換算差額等	△119,356	△120,277
純資産合計	6,774,211	6,568,586
負債・純資産合計	7,612,049	7,340,093

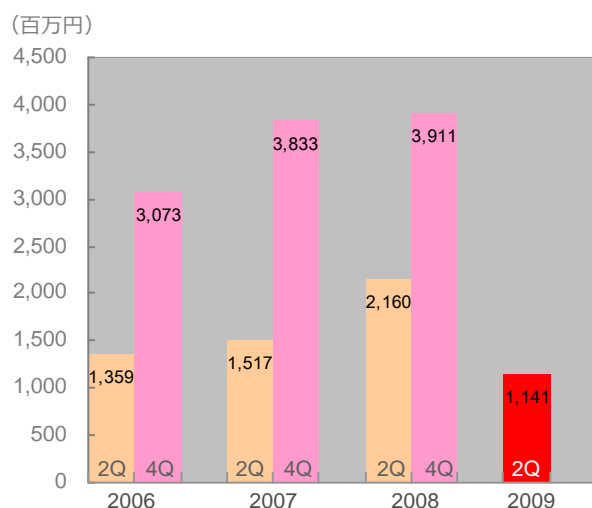
## 連結キャッシュ・フロー計算書 (6ヶ月)

(単位 千円)

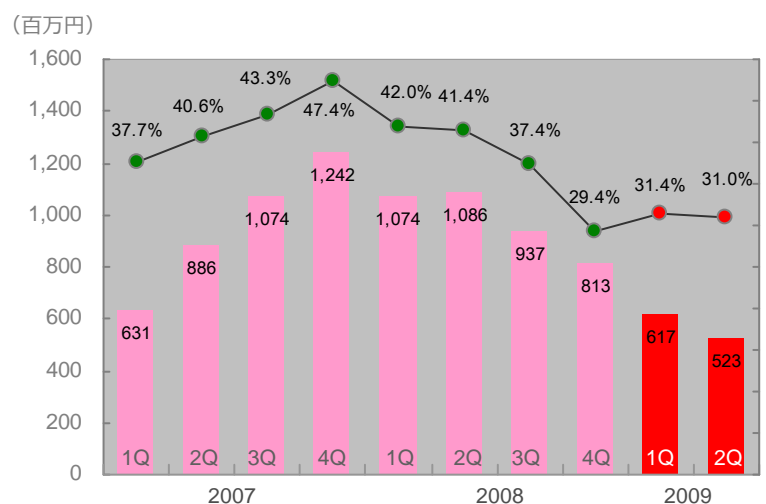
	前第2四半期	当第2四半期
	H20.4.1~9.30	H21.4.1~9.30
営業活動によるキャッシュ・フロー	243,876	176,091
投資活動によるキャッシュ・フロー	58,512	△232,419
財務活動によるキャッシュ・フロー	△89,523	△1,728
現金及び現金同等物に係る換算差額	△21,092	△33,289
現金及び現金同等物の増減額	191,772	△91,347
現金及び現金同等物の期末残高	1,321,068	1,341,464



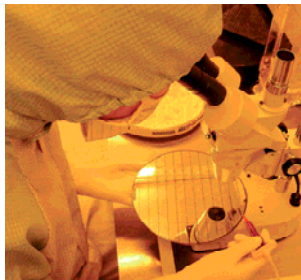
## ■ 連結売上高の推移



## ■ 四半期業績推移 (売上高と粗利率)



## トピックス



### 次世代液晶技術の設備導入を完了しました

当社では、このたび次世代液晶技術である、LCOS（Liquid Crystal On Silicon）を自社生産するための設備の導入を完了し、量産が可能な体制を確立いたしました。

同技術は光通信部品に対して、非常に幅広い応用が可能であるとして期待されているほか、光通信に限らず、様々な分野での活躍も見込まれています。

当社グループでは、次の世代の柱となる新製品開発に取り組んでいるところです。

### LCOS搭載光部品を開発中です

すでに、LCOSを組み込んだ光部品については製品化間近なレベルにまで開発が進んでおります。

光信号の選択と安定化のために用いられる「波長ブロック」製品に、LCOS技術を搭載することで、より高度で安定した性能を発揮することが期待されています。



### OCOT技術の向上を進めています

当社の展開するOCOT製品は、まだ黎明期にある若い技術です。

お客様の要求を実現するためにはどのようにすればよいか、お客様とともに研究を積み重ねて、進歩・発展してまいります。



### 廉価版波長可変フィルタが注目されています

世界的不況を背景にした研究開発予算削減などの厳しい状況の中、当社では波長可変フィルタの廉価版商品を開発いたしました。従来はモーター駆動による波長調整を行っていたものを手動とした、OTF-350製品です。

価格を抑えながら、性能は十分との評価をいただき、多くのお問い合わせをいただいております。



### 地域の皆様とともに環境保全に取り組んでいます



当社は愛知県小牧市を本拠地としておりますが、当社の事業活動は地域社会の皆様のご理解のうえに成り立っていると考えております。

本年も、全社員が参加し、地域の皆様と合同で、清掃活動を行いました。

これからも様々な形で地域社会との関わりを大事にしていきたいと考えております。

### 創立30周年を迎えました

おかげさまで、本年8月25日をもちまして、当社は創立30周年を迎えることができました。

1979年の創立から5年後の1984年、世界初の光ファイバ検査装置を世に送り出し、光通信、光技術の発展とともに、私たちも成長して参りました。

こうして30周年を迎えることができましたのも、ひとえに、お取引先の皆様、そして株主の皆様のご指導のおかげと、あつくお礼申し上げます。

今後とも、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

30th Anniversary